

行楽の秋 旅行や食べ物の本を紹介																		
 <p>「深夜航路」 清水 浩史／著</p>	 <p>「五街道ウォークのすすめ」 八木 牧夫／著</p>	 <p>「一度は訪ねてみたい日本の原風景」 日本国土総合研究所／著</p>																
<p>大洗→苫小牧、神戸→小豆島、博多→対馬、奄美大島→鹿児島…。日本で運航している午前 0 時～3 時発の深夜便全 14 航路を旅した著者が、深夜航海の魅力と、下船後の「旅のつづき」の愉しみを綴る。</p> <p>著者の清水浩史（しみずひろし）さんは、1971 年生まれ。</p> <p>東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程中退。書籍編集者・ライター。著書に「海駅図鑑」「秘島図鑑」など。</p>	<p>五街道は最高のウォーキングフィールド。20 年間歩きつづけ、各街道を何往復もした著者が、ウェアや持ちもの、歩きのテクニック、計画の立て方、おすすめコースなどを紹介する。</p> <p>著者の八木牧夫（やぎまきお）さんは 1950 年生まれ。五街道ウォーク事務局代表。街道歩きのスペシャリスト。</p>	<p>日本全国の疎水、ため池・ダム、棚田・水田遺跡、段畠の中から 80 地区を取り上げ、地区的特徴や魅力を写真と解説で分かりやすく伝える。近傍の立ち寄りスポットも掲載する。</p> <p>データ 2017 年 8 ～ 12 月現在。</p>																
11 月の催しもの																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">とき</th><th colspan="2" style="text-align: center;">催しもの</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1 日 (木)</td><td style="text-align: center;">・午前 10 時～ 午後 0 時 30 分</td><td style="text-align: center;">あかちゃんクラブ ラッコルーム</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 日 (土)</td><td style="text-align: center;">・午前 11 時～</td><td style="text-align: center;">「おはなし」と 「あそび」の広場</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">4 日 (日)</td><td style="text-align: center;">・午前 11 時～</td><td style="text-align: center;">子ども工作教室</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">5 日 (月)</td><td style="text-align: center;">・午前 11 時～</td><td style="text-align: center;">あかちゃん絵本 よみきかせ会</td></tr> </tbody> </table>			とき	催しもの		1 日 (木)	・午前 10 時～ 午後 0 時 30 分	あかちゃんクラブ ラッコルーム	3 日 (土)	・午前 11 時～	「おはなし」と 「あそび」の広場	4 日 (日)	・午前 11 時～	子ども工作教室	5 日 (月)	・午前 11 時～	あかちゃん絵本 よみきかせ会	その他の本
とき	催しもの																	
1 日 (木)	・午前 10 時～ 午後 0 時 30 分	あかちゃんクラブ ラッコルーム																
3 日 (土)	・午前 11 時～	「おはなし」と 「あそび」の広場																
4 日 (日)	・午前 11 時～	子ども工作教室																
5 日 (月)	・午前 11 時～	あかちゃん絵本 よみきかせ会																
			<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「大人の旅じたく」 柳沢 小実／著 ◆ 「バリアフリー温泉で家族旅行 続」 山崎 まゆみ／著 ◆ 「太陽系観光旅行読本」 オリヴィア・コスキー／著 ジェイナ・グルセヴィッチ／著 露久保 由美子／訳 ◆ 「50 歳から個人で行くユネスコ世界遺産の旅」 富田 純明／著 ◆ 「世界まるごとギョーザの旅」 久保 えーじ／著 ◆ 「やっぱり食べに行こう。」 原田 マハ／著 ◆ 「葉室麟 洛中洛外をゆく。」 葉室 麟／著 															

【意】 旧暦九月九日の重陽の節句の日、小高い丘に登つて茱萸を頭に挿し菊の花びらを浮かべた酒を飲む風習あり、王維が四名の弟たちと楽しく遊んだ故郷の肉親をしみじみと想つた詩。

正風流二代目家元 山内 正風

詩吟
「九月九日山東の兄弟を憶う」 王維

ひとり異郷に在つて異客と為り
佳節に逢う毎に倍 親を思う
遙かに知る兄弟 高きに登る処
遍く茱萸を挿して 一人を少くを

短歌
「濃尾平野」

飛行機雲ひと筋くつきり空切りぬ
濃尾平野に秋深みつつ
あぜ道に一輪咲ける青花と
郷の竹やぶ群生なつかし
一つずつ食みて残りの栗きんとん
家族でじょんけん（ぱあ）の手に受く

鈴木 淑子 桜井 五月 後藤 一枝

ふそう短歌会

この冬がホントに立てばお慰み
化粧瓶おしゃれに並ぶ洗面所
庭先の花が咲いたら墓参り

石田游多恵 山田津多恵 小室美美子

川柳

俳句 「七五三」

ふそう俳句会

簪の跳ねて落ちけり七五三
定めある世に定めなく秋しぐれ
つづれさせを教へし母の影仄か

白井 照波
会田 宗和
近藤 喜山

扶桑川柳クラブ